

I 日本語・日本事情教育：  
平成27年度日本語研修コース（第1期）

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2017-05-01 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 袴田, 麻里 メールアドレス: 所属:
URL	<a href="https://doi.org/10.14945/00010071">https://doi.org/10.14945/00010071</a>

**日本語3 漢字、語彙** 1コマ/週

- 目 標：これまでに習得した日本語力を用いて、読める力を身につける。  
内 容：日常生活に必要なレベル（N3）の語彙、漢字を習得する。  
習った知識を使って、文章を読めるようにする。  
教 材：『語彙マップで覚える漢字と語彙 中級1500』（Jリサーチ出版）

## 平成27年度日本語研修コース（第1期）

袴田 麻里

### 1. コースの趣旨と目標

14年度後期より開講してきた学部入学前予備教育プログラム（日韓理工系学部留学生コース）を、21年から研究生向けに変更し後期にのみ開講している。

本コースは、修士課程進学を前提に本学で研究生として在籍する留学生に対して、大学院受験に足る、また、修士生として勉学できる日本語能力（日本語能力試験2級以上）を身に付けさせることを目標としている。中級から上級レベルの語彙、文法、漢字能力の補強、発話能力、作文能力の育成を行った。

### 2. 授業期間

第7期：平成27年10月8日から平成28年2月10日

### 3. 受講生

プレイスメントテストの結果、中級後半の日本語力を持つと判定された研究生1名（中国）、交換留学生1名（韓国）、修士生2名（インドネシア1名、ベトナム1名）が受講することになった。3名は90%以上の出席率であったが、研究生の1名は研究室での活動の都合により81%であった。

### 4. 日程と時間割り

〈日程〉	10月5日（月）	ガイダンス
	10月6日（火）	プレイスメントテスト
	10月8日（木）	コース開始
	12月11日（金）	中間試験
	2月9日（火）	期末試験
	2月10日（水）	コース終了

〈時間割と担当者〉

	月	火	水	木	金
12：45－ 14：15	文法、語彙 [グロ専任]	文法、語彙 [非常勤]	科学系日本語 [非常勤]	文法、語彙 [非常勤]	文法、語彙 [非常勤]
14：25－ 15：55	会話 [国セ専任]	作文 [非常勤]	聴解 [非常勤]	速読 [国セ専任]	作文 [非常勤]

## 5. 授業概要

表現したいことを適切に表現できるようになること、文法・語彙と共に修士生としての勉学に必要な漢字習得を学習目標としている。また、大学生活により密着した表現形式を身につけさせるため、作文教材の改善、会話コマの内容改善を行った。

### 語彙・文法 4コマ／週

使用教材：『学ぼう！にほんご 中条級』（専門教育出版）

目 的：①精読を通して、語彙、文法に理解を深める。  
②中級から上級レベルの漢字を習得する。

内 容：教科書本文を精読後、提出された語彙の確認を行なう。類義語、対義語がある場合には、同時に提示する。どのような場面、文脈、文体で使用するのかを明確に理解できるよう、例文を多く用い説明する。また、理解の程度を確認するため、2課に1回、復習の時間を設ける。漢字テストは1課ごとに行なう。

### 速 読 1コマ／週

使用教材：新聞、雑誌などから適宜

目 的：細かい部分にこだわらず、全体をつかむ読み方ができるようになる。また、日本語の文章構造に慣れ、重要項目、重要段落を探せるようになる。

内 容：教材を規定時間内に一読し、キーワードの抽出を行なう。また、文章の構造を把握するために、段落ごとに要約をする。最後に全体の内容の理解度を確認する質問を行なう。

### 作 文 2コマ／週

使用教材：自主製作教材

目 的：話し言葉と書き言葉の違いを理解し、使い分けられるようになる。日本語の文章表現法を身に付け、まとまりのあるレポート程度の文章が書けるようになる。

内 容：例文を通して作文のための表現を学び、練習問題で表現の使い方を理解する。次に1つのテーマについて資料をもとにディスカッションを行ない、その内容を学んだ表現を使いながら作文する。

**聴 解** 1コマ/週

使用教材：『学ぼう！にほんご 中条級』（専門教育出版）

『毎日の聞き取り50日 中級』上、下（凡人社）

『毎日の聞き取り50日 中級プラス』上、下（凡人社）

目 的：細かい部分にこだわらず、全体をつかむ聞き方ができるようになる。また、日本語の発話に慣れ、発音や強調など音声上の特徴から要点を聞き取れるようになる。

内 容：語彙・文法で導入された項目を音声を通して再度確認する。適宜、重要語句や表現の提示を行ない、発話練習の準備とする。聞き取りにかかった部分については、その理由について考察する。

**会 話** 1コマ/週

使用教材：『学ぼう！にほんご 中条級』（専門教育出版）

目 的：語彙・文法、速読で得た語彙や表現を口頭で表現できるようになる。

内 容：語彙・文法、速読の教材の内容について、ディスカッションを行なう。また、同じ話題で日本人ボランティア学生ともディスカッションを行ない、対話の形式、質問に対する返答など適切に発話できるよう練習する。

**科学系日本語** 1コマ/週

使用教材：『留学生、研修生のための科学技術日本語』（金沢工業大学）

目 的：工学部では日常的に使用されるが、日本語教材では取り上げられない語彙、表現を身に付ける。

内 容：1コマ1課で「手を使う」など項目ごとに動詞、また状態を表す副詞の導入、練習を行なう。受講生の母国語に対応する語が必ずしもあるとは限らないため、できるだけ実物や動作を使い、具体的な理解を促す。課ごとに理解を確認するテストを行なう。

## 6. 学内での連携

集中コースという性格上、研究生の履修は、研究室での活動に制限が生じる恐れがある。そのため、受講生が研究活動と日本語学習のバランスを取れるよう、プレイスメントテストの結果を指導教員にも送付し、集中コースについて指導教員から理解を得る努力をした。また、申込み用紙には、受講者と指導教員が受講理由を書く欄を設け、指導教員からの受講許可を明確にしたが、今年度は研究室の活動も同時に進めたため、研究生の出席が他の履修者に比べて低くなった。

履修者の中間試験、期末試験結果は、履修状況とともに、指導教員へ送付し、学部教員が指導留学生の日本語学習状況を把握できるようにし、相互に連絡を取り合いながら、指導にあたった。また、留学生支援ボランティアを教室に招いてインタビューさせるなど、学んだことを使い、同時に多様な日本語に触れられるよう心がけた。